

令和4年7月9日

南の風 For Junior97

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

現在、どのカテゴリーでも大会や強化試合、リーグ戦がおこなわれています。高校、中学の3年生は、最後の大会になった選手もいたのではないのでしょうか。学校生活のまとめの大会が、悔いなく戦えたのであれば何よりだと思います。皆さんの今後の活躍を祈っています。

さて、ミニバスのリーグ戦の折に何人かの指導者の方と話す中で、バックラインディフェンスが話題になりました。ある指導者の方が、「できれば、バックラインディフェンスを南の風で取り上げてください。」という話がありました。

91号から、私が取り組んでいるマンツーマンディフェンス（シェルディフェンス中心）を紹介しました。バックラインディフェンスは、シェルディフェンスとは対照的な守り方になります。私も勉強するつもりで、取り上げることにしました。

バックラインディフェンスは、2016年頃アメリカNCAA所属のバージニア大学の、ヘッドコーチ、トニー・ベネットによって考案されました。バージニア大学は2019年にNCAAで優勝を果たし、そのときに脚光を浴びたディフェンスです。バックラインとは、現在の3Pラインの内側1mの仮想ラインのことです。バックラインディフェンスとは、このラインの内側を小さく守るマンツーマンディフェンスのことです。このディフェンスの原型はノーラインであり、3P導入前から用いられていました。

このディフェンスには、以下のような3つの原則があります。

- ①ボールマンにはワンアームの距離（1.5m）
- ②ボールのとなりはディナイしない（オープンスタンスでシャドーに入る）
- ③ボールマンをミドルに誘導する（ノーライン、ファネル）

①についてです。ボールマンを自由にしてしまうと、シュート、パスでやられてしまうので、ワンアームの原則は必ず守ることを徹底します。バックラインの外でもボールにはしっかり付きます。

②です。普通は、2線はディナイ（片方の手のひらをボールマンに向ける）で守りますが、バックラインディフェンスでは、ボールのとなりはボールマン後方にポジション取りして、オープンスタンスで守ります。ボールマンの影になるように守ることから『シャドーに入る』という言い方をします。シャドーに入る理由は、ボールマンのドライブ突破を2線がヘルプして守り、ペイントへのドライブを阻止するためです。ゴールの近くではシュートをさせないことがこのディフェンスの大きな目的なのです。

また、2線が守る相手にパスされれば、ボールが空中にある間にクローズアウトして付きます。簡単にパスされてキャッチ&シュートを許さないためです。そして、バックラインディフェンスでは、ボールマンにしっかり付いて、ドリブルジャンプシュートをさせるように仕向けるのです。

なぜドリブルジャンプシュートを打たせるかということ、確率を落とすためです。シュートの期待値データを見ると、ペイントエリアのシュートが一番高く、次がノーマークのキャッチ&シュート（3Pシュートも含めて）です。ディフェンスがいて、ドリブルしてシュートしたり、抜ききれなかったり（ヘルプに捕まって）して、止まって打つシュートは期待値が下がるからです。 次号にします。